

令和2年4月23日

保護者 各位

茨城県立下妻第一高等学校長

令和2年度創立記念日にあたって

4月25日は、本校の創立記念日となりますので、本校の歴史について簡単に申し上げます。

本校は、現在の水戸一高の前身である茨城県尋常中学校の下妻分校として、現在の下妻市本宿（ほんじゅく）にある新福寺に仮校舎が置かれて、その産声をあげました。今から123年前の1897年（明治30年）4月25日、開校式が行われた、と記録されています。同じ年には、現在の土浦一高も茨城県尋常中学校土浦分校として創立しています。

2年後の明治32年、茨城県立中学校下妻分校となり、現在の地に木造2階建ての校舎が完成し、その威容ある本館は、昭和44年まで、70年もの間、愛着をもって使用され、多くの若人を育ててまいりました。

翌年、明治33年に、本校は茨城県立下妻中学校となり、同時に、現在の水海道一高である茨城県立下妻中学校水海道分校を新設いたしました。本校は、土浦中学校とともに茨城県で2番目の中学校、県西唯一の中学校となりました。

戦後の学制改革により、昭和23年4月、茨城県立下妻高等学校として、全日制、定時制、上山川分校を設置し、翌昭和24年4月に現在の茨城県立下妻第一高等学校と名称を変えました。旧制中学校50年と新制高校73年の歳月を重ね、本年、創立123年目を迎えるわけです。今年3月まで、一世紀にわたり輩出された卒業生は28,660名に上り、それら卒業生の多くが、県内は勿論、国の内外の各方面で活躍されていることは、皆さんもご存じのとおりです。

また、本校の校歌に「為桜の園」あるいは「為桜の旗」とあるように、本校は「為桜学園」の愛称でも親しまれ、為桜祭、為桜会館、為桜学習館、為桜新聞、為桜図書などと、「為桜」の名称は、明治34年の「為桜会」発足以来、愛され用いられています。この「為桜」の名は、水戸学の藤田東湖の「文天祥（ぶんでんしょう）正気（せいぎ）の歌に和（わ）す」の一節「発（ひら）イテハ万朶（ばんだ）ノ桜ト為（な）ル」に由来し、校章も高校の「高」の文字を5枚の桜の葉で囲み、文字どおり「桜ト為（な）」っているわけです。

なお、校歌は、明治43年に作られたといわれ、当時、一世を風靡した旧制一高寮歌を原曲として、作詞は当時の生徒2名の共作に、郷土の詩人、横瀬夜雨が加筆したものと伝えられています。歌詞には明治の気質さながらに「質朴剛毅（しつぽくごうき）の校風を」とあり、校訓には「堅忍不拔（けんになふばつ）の志気を修養すべし」と、実に気概に満ち溢れています。

以上、創立記念日を迎えるにあたり、本校の歴史について申し上げます。保護者の皆様には、この下妻一高の歴史の重みとこれからの進むべき道について、より一層のご理解とご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。